

【国宝 新指定の部】

近代京都を象徴する、明治日本における都市基盤施設の金字塔

(近代／産業・交通・土木)

琵琶湖疏水施設 4所、1基

第一隧道、第二隧道、第三隧道、インクライン、南禅寺水路閣

所在地：滋賀県大津市、京都府京都市

所有者：京都市

琵琶湖から京都へ水を運ぶ長大な運河を構成する施設。煉瓦造の第一から第三隧道は、両端に古典主義様式等の装飾を施した重厚な坑門^{こうもん}を構え、伊藤博文^{やまがたありとも}、山縣有朋^{げんくん}ら元勳^{きこう}が揮毫^{へんがく}した扁額^{へんがく}を掲げる。特に第一隧道では我が国で初めて近代的な豎坑工法^{たてこう}を導入し、長大な規模を実現。インクラインは、比高差約36mの上下舟溜間^{ふなだまり}を結び、舟運路の要となる、建設当時最大規模の傾斜鉄路^{なんぜんじ}。南禅寺境内を横切る水路閣は、当時最長を誇った威風堂々たる煉瓦造14連アーチ水路橋。西洋技術の習得過程にあった明治中期において、世界的に高い評価を得た類い希な建造物であり、明治日本における都市基盤施設の金字塔。また、風雅な園地群などに水を供給し、自然と人工、伝統と近代の景観が織りなす近代京都の比類ない風致を育んだ琵琶湖疏水の代表遺構でもあり、深い文化史的意義が認められる。

○指定基準＝重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの



南禅寺水路閣

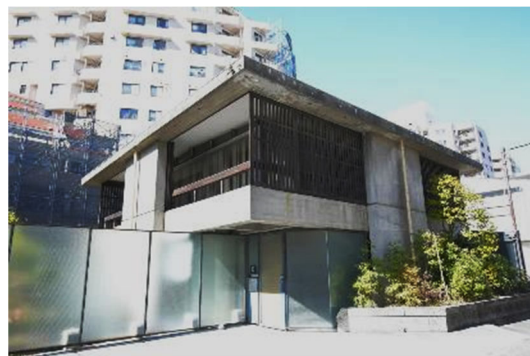
提供：文化庁

【重要文化財 新指定の部】

- ① メタボリズムの思想を先駆的に体現した建築家菊竹清訓の独創的な自邸（近代／住居）
スカイハウス（旧菊竹清訓自邸） 1 棟

所在地：東京都文京区

所有者：個人



提供：文化庁

戦後を代表する建築家の一人、菊竹清訓が昭和33年に建てた自邸。社会の変化に伴い成長する建築・都市のあり方を追求した、後の建築運動「メタボリズム」に通じる自らの建築思想「とりかえ可能な住宅」を具現化した。シェル構造の屋根をかけた鉄筋コンクリート造の住宅で、周囲に吹放しの回廊をもつ正方形平面の居住空間が、四辺に立てた板状の柱により支持され宙に浮く。長期の使用を想定する躯体に対し、キッチン等の設備や子供部屋は更新や増築が可能な「ムーブネット」として扱い、家族構成や技術、社会の変化に対応。菊竹がその造形力を存分に発揮した、独創的かつ洗練された代表作の一つであり、メタボリズムの思想を先駆的に体現した希少な作品として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

- ② 重伝建地区南越前町今庄宿を代表する福井県下最古級の町家（近世以前／民家）

旧京藤家住宅（福井県南条郡南越前町今庄） 2 棟
主屋、土蔵

所在地：福井県南条郡南越前町

所有者：南越前町



提供：南越前町教育委員会

北国街道の宿場町今庄宿で「大門屋」という屋号で酒造業を営んだ庄屋。重要伝統的建造物群保存地区南越前町今庄宿のほぼ中央に位置する。寛政1

1年（1799）の大火後に再建された主屋は享和元年（1801）頃の建築で地区内最古とみられる。文政7年（1824）頃に座敷を増築。妻壁を立上げ卯建とした町家で、二階に袖壁を付し、当地区では唯一外部全体を塗籠めるなど防火に備える。通り土間を板敷とする平面形式、軒下に突出す登梁尻、前転びの傾斜を付けて摺上戸を建てる正面構えは、越前地域における近世平入町家の地域的特徴を顕著に示し、地区内のみならず福井県下においても最古級の町家として貴重。主屋背後に建つ三階建の土蔵とともに保存を図る。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

③ 古式を示す尾張徳川家菩提寺の壮麗な大型本堂（近世以前／寺院）

けんちゅうじほんどう
建中寺本堂 1 棟

所在地：愛知県名古屋市

所有者：宗教法人建中寺

旧名古屋城下の東端に境内を構える浄土宗寺院で、徳興山と号する尾張徳川家の菩提寺。藩祖義直の菩提を弔うため、慶安4年（1650）に2代光友が開創した。本堂は、天明5年（1785）に地域一帯を焼いた大火後の再建で、尾張藩の作事によ

り天明6年8月に上棟、同7年5月に供養が行われた。前身本堂に倣った平面は浄土宗寺院本堂に典型的な形式で、内陣と位牌間まわりを明確に画す凸形平面の結界、面取角柱の多用などに古式を示す。装飾など一部は増上寺寛永度本堂を参考とし、銅板巻の妻飾は当時の尾張藩作事方に特徴的な仕様。本山寺院と比肩する破格の規模を持ち、尾張徳川家菩提寺に相応しく、内陣まわりを巧みな彫刻欄間や極彩色で荘厳した壮麗な大型本堂。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの



提供：名古屋市教育委員会

④ 独自の形式と豊かな装飾を持つ尾張徳川家の格式高い霊廟（近世以前／神社）

けんちゅうじとくがわけ くれい や
建中寺徳川家御霊屋 3 棟

ほんでん あいのま きょうでん からもん すきべい
本殿・合間・経殿、唐門、透塀

所在地：愛知県名古屋市

所有者：宗教法人建中寺

旧名古屋城下の東端に境内を構える尾張徳川家の菩提寺。藩祖義直（源敬公）の菩提を弔うため開創され、源敬公は当初、本堂に祀られた。以降、境内には歴代の藩主と夫人の御霊屋が造営された。当建物は本堂に代わり新たに設けられた源敬公の御



本殿内部

提供：名古屋市教育委員会

霊屋で、寛政10年（1798）の建築。明治以降は建中寺に残る唯一の御霊屋となり、尾張徳川家代々の祖霊を合祀。社殿は本殿と合間、経殿からなり、正面に唐門を配し、透塀が圍繞する。内外の絢爛な極彩色は保存状態が良く、意匠性に富む。入母屋造妻入で内部を上下段に分けた本殿、吹放しの合間、読経を行う経殿を複合した社殿とそれらを囲う唐門と透塀からなる構成は、建中寺特有の御霊屋の形式を堅持しており、歴史的に重要。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

⑤ ^{じんぞうせき} 人造石工法で築かれ、近代林業を支えた希少な水中貯木場（近代／産業・交通・土木）

^{きゅうまいちよぼくじょうしせつ} 旧今井貯木場施設 3所、1基

^{ちよぼくち} 貯木池、^{ひもん} 樋門、^{みちつつみ} レール道堤、^{せいばんじょうきそ} 製板場基礎

所在地：愛知県豊田市

所有者：豊田市、個人、国（国土交通省）

^{やはぎがわ} 矢作川中流域に築かれた水中貯木場。今井家は近世来「^{どうぜん}百善」を号する木材商で、当施設は大正7年の建設。木材を陸揚げせず水中で保管し、^{いかだ}筏を組む貯木池は長方形平面で、周囲に石積擁壁と土堤を廻



提供：豊田市

らし、内部に突堤6所を設け木材を材種毎に仕分けした。明治期以降に発展した^{たたき}三和土で石積を固める、当地域に特徴的な人造石工法を駆使した大規模遺構の一つ。我が国近代の林業を支え、中流域に開設された水中貯木場として全国的に貴重な遺構であり、また一連の施設がほぼ完存し、近代の貯木場システムの構成を知る上で歴史的に価値が高い。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの、流派的又は地方的特色において顕著なもの

⑥ 近代京都の形成に大きく寄与した長大な運河とその関連施設（近代／産業・交通・土木）

^{びわこそすいしせつ} 琵琶湖疏水施設 16所4基4棟

^{おおつこうもん} 大津閘門及び^{せきもん} 堰門、^{おおつうんが} 大津運河、^{だいいちずいどう} 第一隧道、^{だいに} 第二

^{ずいどう} 隧道、^{だいさんずいどう} 第三隧道、^{あんしゅがわすいろきょう} 安朱川水路橋、^{だいじゅうごうきょう} 第一〇号橋、

^{だいじゅういちごうきょう} 第一一號橋、^{えびすがわこうもん} インクライン、^{えびすがわこうもん} 夷川閘門、

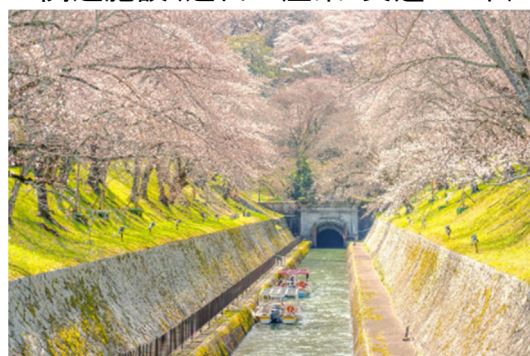
^{なんぜんじすいろかく} 南禅寺水路閣、^{だいがずいどう} 第五隧道、^{だいろくずいどう} 第六隧道、^{ひのおかずいどう} 日岡隧道、

^{しんきゅうりょうすいれんらくあらいげき} 新旧両水連絡洗堰、^{ごうりゅうずいどう} 合流隧道、^{けあげ} 蹴上

^{ほうすいしよ} 放水所、^{ななせがわほうすいしよ} 七瀬川放水所、^{けあげじょうすいじょうだいいちこうく} 蹴上浄水場第一高区

^{はいすい} 配水池、^{けあげはつでんしよきゅうほんかん} 蹴上発電所旧本館、^{えびすがわはつでんしよ} 夷川発電所

^{ほんかん} 本館、^{ふしみはつでんしよほんかん} 伏見発電所本館、^{ほんがんじすいどうすいげんち} 本願寺水道水源池、^{きゅうごしよすいどうだいにちやますいげんちほんぶしよ} 旧御所水道大日山水源地唧筒所



大津運河

提供：京都市

所在地：滋賀県大津市、京都府京都市

所有者：京都市、関西電力株式会社、宗教法人真宗大谷派、個人

琵琶湖の湖水を京都へ疏通する長大な人工運河とその関連施設。東海道とほぼ並行する第一疏水、南禅寺境内を横切り北上する疏水分線は、農商務省及び京都府が立案した計画に内務省土木局が手を加え、工事は^{たなべさくろう}田邊朔郎と^{しまだみちお}島田道生を中心に明治23年に竣工。第一疏水を補う第二疏水は同45年の完成。舟運、灌漑、防火、発電、水道等の都市近代化に係る多岐にわたる機能を集約した大規模な施設。特に新技術を積極的に導入し、建設当時我が国最長規模を誇った第一隧道は、近代トンネルの規範的存在。明治維新後に衰頹した京都の再興を支えた、京都の近代化を象徴する都市基盤施設。

○指定基準＝技術的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

⑦ ハーフティンバーの外観が美しいチューダー様式の重厚な洋館（近代／住居）

きゅうしもむらけじゅうたくようかん

旧下村家住宅洋館 1 棟

所在地：京都府京都市

所有者：株式会社大丸松坂屋百貨店^{だいまる}

京都御所の西側に位置する、大丸創業家当主 1 1 代下村正太郎の邸宅。現在は大丸ヴィラとして知られる。鉄筋コンクリート造、3 階建、地下 1 階の洋館で、アメリカ人建築家、W. M. ヴォーリズの設計、清水組の施工により、昭和 7 年に竣工。内外と

も下村が好んだイギリスの建築様式チューダー様式を基調とする。外観は木造の柱や梁を見せる美しいハーフティンバーで、煙突が林立する急勾配の屋根をスレートで葺く。内部は 1 階の広間や居間、食堂、二階の階段室や会議室などに格調高く重厚な装飾を施す。数多いヴォーリズの住宅作品の中でも優れた意匠を誇る住宅であり、我が国屈指のチューダー様式の邸宅である。塀や門、庭園の構成要素など屋敷構えとともに保存を図る。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの



提供：京都市

⑧ 岡本太郎の造形を先端技術で具現化した大阪万博の記念碑的レガシー（近代／その他）

たいようとう

太陽の塔 1 基

所在地：大阪府吹田市

所有者：大阪府

昭和 4 5 年に開催された大阪万博のパビリオン。会場の中心、お祭り広場の大屋根などと一体的に「人類の進歩と調和」を表現するテーマ展示施設としての役割を担った。近年構造補強を行い、恒久的な建築物となった。テーマ展示プロデューサーを務

めた芸術家岡本太郎によるデザインを忠実に具現化するため、一流の学者や設計者、施工者が当時最先端の技術を結集。数学的解析により複雑な三次元曲面を数式化する先進的な手法を用い、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造を混用した構造に、建築では初期の事例となる湿式ショットクリート^{しっしき}をシェル状の外殻に採用して、巨大かつ特異な形状の構造物を実現した。高度経済成長期の日本を象徴する大阪万博の記念碑となるレガシーとして貴重である。

○指定基準＝技術的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの



提供：大阪府